

2018年度第1回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2018年4月12日（木） 午後6時30分から
- 2 場所：国分寺労政会館 第2会議室（3階） （国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：8名
出席者：座間直壯、清田義昭、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、堀渡、堀越洋一郎
欠席者：矢崎省三
事務局：蓑田明子

（1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2018年4月10日現在
正会員85名2団体、賛助会員45名1団体、計130名3団体（合計133）
- ・会費入金状況
年度末を迎えて 3月31日現在の会費未納者 正会員2名 賛助会員8名

（2）第2号議案 第32回多摩デポ講座「食の文化ライブラリーの見学と、経験を聞く会」について【報告】

- ・3月19日（月）、「食の文化ライブラリーの見学と、経験を聞く会」を実施した。
- ・午後1時30分にもよりの地下鉄高輪台駅改札前に集合し、図書館に向かう。1時45分から4時30分頃まで、図書館雑誌の「れふあれんす三題噺」に同館の事例を書かれていた草野氏が館内を丁寧に案内し、地下の閉架書庫や、古典籍や浮世絵等を納めた収蔵庫を見せてくれた。別室で館長も加わり、運営事情、図書館として考えていること、課題等を話し、質疑も受けてくれた。
- ・参加は13名。内訳は稲城市立図書館職員3人、都内公共図書館職員1名、NPOげんきな図書館グループ4人、多摩デポ理事・事務局5人。
- ・味の素（株）の社会貢献活動の一環として1989年に設立。組織としては公益財団法人として、この「食文化の専門図書館」運営以外に、毎年「食の文化フォーラム」開催や季刊雑誌の発行などを行っている。
- ・どの公立図書館でも盛んに収集・提供しており、利用者にもなじみ深い「食」の分野の実用的な図書、雑誌を扱い詳細に独自分類し、体系的に見せ、面展示等も丁寧に行いながら、長く保存している様子に参加者一同、感心し、実務的にも刺激を受けた。
- ・事務局では今年度は専門図書館の活動を調べてきた。どこでも盛んに収集・提供はしているが、保存スペースの狭さの下では長期保存の対象からは外されがちで、相対的には保存の必要性の認識が弱い（と思われる）「実用書」の保存を公立図書館ではどう考えたらいいか？保存・活用の在り方の研究をしよう、と。その流れの上での企画だった。
- ・全分野を扱う公立図書館でどこまで手をかけられるかとか、スペース問題はもちろんあるが、「食」の分野については（はやりすたりもある実用的な出版物を使って）充実した長期的コレクションが可能で、腰を据えた公開活動をあてにして、利用者もついていることが分かった。
- ・このことを参考にして、他の分野の「実用書」の問題も考えていきたい。

（3）第3号議案 （株）カーリルとの共同研究について【報告・協議】

（1）TAMALAS一括処理システムの多摩地域全体への周知について

- ・新年度にはなるべく早く「一括処理システム」を多摩地域全体に公開していく段取りを考え

たい。多摩地域の全図書館長が集まる場でその内容を「多摩デポ」から説明することができ、利用申請のための書類等も全自治体に同時に配れることが望ましいのではないかと。

(2) TAMALAS 一括処理システムの内容の準備

- ・2月の第3回 TAMALAS 地域説明会の時に、参加した各館長には理事長から申請書案を渡し、読んでおいてもらえるようお願いした。
- ・一括処理システムで得られる検索結果と、TAMALAS の個別検索で一つ一つ調べて得られる検索結果を照らし合わせて検証しておく必要がある。
- ・一括処理システムは大量の資料データを投入し結果をまとめて出す方法だから、各自治体で戸惑わずに使ってもらえるためには、わかりやすい作業マニュアルも同時に提供することが必要である。

(3) ISBN が付与されていない資料の同定について

- ・(株)カーリルが試行的に作った「多摩デポ統合検索システム」が現段階でどこまで使えるか、事務局員等で分担し、1月～2月に使って試してみた。
- ・その結果得られた書誌のバラつきをどの程度は機械的に調整するか、そうすればどの程度使えるようになるかを研究している。

(4) 「リアル共同保存図書館の準備」について

- ・昨年5月の通常総会で2017年度の事業計画の一つとして提案した「ISBN 無し資料だけでも集められるリアル共同保存をまず模索しよう」との方針は、実際にはあまり動いてこられなかった。
- ・年度末にあたり、そのことを反省・総括し、来年度の活動につなげていく必要がある。
 - ・バーチャル共同保存から、リアル共同保存へ
 - ・ISBN あり資料については TAMALAS の活用で確認が容易になり、希少資料を確実に残す実践の普及が重要。ISBN 無し資料については、確実な検索・同定の方法の模索へ
 - ・分担保存から、ISBN 無し資料の一部だけでもリアル共同保存の実施へ
→考えの筋道を議案書に反映させ、2018年度の具体的な実践の課題としていく。

(4) 第4号議案 2018年度総会の議案及び記念講演について【報告・協議】

①前回の理事会に続き、事務局で準備してきた総会議案書案を説明し、提案した。

- ・第一号議案（2017年度事業報告承認）の内容について
- ・TAMALAS の多摩地域での普及と TAMALAS 一括処理システムの公開準備に取り組んだ
- ・現状では分担保存にとどまるが、TAMALAS の提供により共同保存の実践的な機運を図書館現場に醸成してこられたのではないかと
- ・第三号議案（2018年度事業計画）は、第一号議案を受けて書くことになる。
- ・「バーチャル共同保存からリアル共同保存へ」だが、具体的には基本方針をどう書くか。特に「リアル共同保存図書館の準備」という次の問題をどう書くか
- ・現役世代や「館長会」との連携を深めていきたいという課題
- ・都立図書館への要請という「館長会」との共同運動とともに、自前での調達の模索
- ・「独自の保存スペースの確保をあきらめたわけではない」という記述は、両論併記的でわかりにくいのではないかと。
- ・「リアル共同保存の実現」への道筋については、もっと説明が必要だと
- ・指摘部分は事務局で直して、再度提案する。
- ・第五号議案として「定款の変更」の提案を入れる。

- ・会計関係の第二号議案、第四号議案を報告し、理事会として承認した
- ・理事会で再提案への了解が取れば、事務局で議案書とそれ以外の書類も印刷・発送し、総会準備を進める

②塩見昇氏（前日本図書館協会理事長）による総会記念講演会について

- ・塩見昇氏が、このテーマで講演されることの意義
- ・塩見氏は市町村立図書館の普及の次の段階をどう描いていたか(『市民の図書館』の提案がある程度実現していく以後の構想について)。特に、開館後に資料収集・提供を続け、きつくなっていく各館の蔵書の保存についてはどう考えていたか
- ・この間の各都道府県立図書館の動き、特に市町村の図書館振興に連動した変化や、連携した資料保存の動きの有無についてはどうとらえているか
- ・そして現在、開館後数十年たつ各図書館は資料保存をどう考えたらいいか
- ・多摩デポへのアドバイスや、その他資料保存について思うことなどを、大局から語っていただけるとよい
- ・塩見氏に希望を伝え、講演内容を準備していただいている
- ・講演を元にしたブックレットの編集・発行についても了解をいただいた

③懇親会について

- ・会場 あひるのたまご（中華食堂） 国分寺市南町 2-16-20
- ・飲み放題付き 3980 円のコース ・時間 17:00～19:30

(5) 第5号議案 多摩デポ通信第46号の発行について【報告・協議】

- ・紙面内に、総会案内や記念講演会の記事も掲載し、4月25日くらいには発行を予定したい。
- ・総会議案書、招請状、出欠票、委任状、記念講演会チラシ等を同封する。図書館宛には里親探し案内(2018年度改訂版)を同封する。

(紙面の予定)

- ・理事長からの呼びかけ — 総会開催案内
- ・総会記念講演会の案内、塩見昇氏紹介
- ・第32回多摩デポ講座の事務局からの報告、参加者感想（稲城市職員、都立図書館職員）
- ・カーリル共同研究報告（その14）、TAMALAS 一括処理システムのこと、利用申請のこと、ISBN 無し資料の同定の研究のこと

(6) 情報交換

- ・第4回 TAMALAS 地域説明会のこと
 - ・未実施である西多摩地域での説明会開催については、同地域の全自治体で了解されている。新年度の事務局の図書館長に相談して、日程調整を依頼する。
- ・館長会全体会での TAMALAS 一括処理システムの概要紹介と利用申請等の説明
 - ・理事長、事務局長が実現に向け、調整中。
- ・多摩デポブックレット第12号「永江朗氏講演録」編集
 - ・2017年度総会記念講演『図書館の「捨てると残す」への期待と不安』の講演者永江朗氏が、テープ起こしでは文字量が少ないところを、加筆して返送してくれた。2万8千字あり、長さは十分。ブックレット編集に入っていく（制作費は2018年度予算となるが、できれば6月の発行をめざす）。
- ・館長協議会の除籍実務担当者会の発足

- ・「除籍実務担当者会」が全自治体から担当者を集め、2月22日（木）に西東京市柳沢図書館で開催された。事前にアンケートを取っている。
- ・この会の今後の動きに注目する。
- ・多摩デポホームページの改良の検討
 - ・新しいホームページビルダーを購入した。
 - ・スマホで見る人が多くなっている時代なので、それに対応した画面構成にする必要がある。
 - ・担当者にはトップページの見出しのレイアウト等に手直ししたいアイデアがある。
 - ・総会を期にリニューアルができればよいが、中身について理事の意見を伺いたい（時間が足りず、次回へ持ち越しとなった）。
- ・「ひとハコ図書館」事業への協力
 - ・東久留米市立中央図書館から多摩デポへ、同市中央図書館が年1回行っている行事、「図書館フェス2018『ひとハコ図書館』」（今回が4回目）への参加依頼があった。
 - ・5月19日・20日の2日間、中央図書館で、「図書館フェス」の看板行事として「ひとハコ図書館」の展示を行う。
 - ・今年のテーマは「図書館を知る／本を楽しむ」だが、それを念頭に「自分が小さな図書館の館長になったら」の想定で本のリストを20冊以内で示し、その図書館のコンセプトや出展者紹介をしてほしい。図書館で本を集め展示することのこと。「出展は可能」「リストは後日送る」との返事を出した。

【多摩デポ記事】

- ・『図書館雑誌』 3月号 p136 「窓」（巻頭コラム）「生き返った『箱詰め』の本のこと」
堀内寛雄

【共同保存図書館関連論文】

- ・特になし

【読売新聞 多摩版コラム「週刊たま手箱」】

- ・年度末（3月）で、「たま手箱」のコラム欄を終了すると、読売新聞から連絡が入った。
- ・1月17日（水）に掲載された「子どもに学ぶ利用法」（蓑田明子・執筆）が最後になった。

- ★ 次回の理事会 6月 日（ ） 午後 時 分～
- ☆ 次回の事務局会議 5月 日（ ） 午後 時 分～
- ★ カーリルとの共同研究 第31回定例会 4月19日（木）午後6時30分～
会場：国分寺労政 第2和室

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田義昭理事、堀渡理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2018年4月12日

議長

議事録署名人

議事録署名人